

# 災害時のいろはニューズ

No. 7 R8 2月

## 2025年度の活動のふり返り

1年目の黒笹コミュニティ祭りでは「地震に備える」ためのパネル展示による情報提供やシール形式のアンケートで住民の皆さんの防災意識や日頃の備えの疑問点を伺うことを福祉事業所「笑みリハビリデイサービス」と話し合いながら行いました。



黒笹  
行政区

コーディネーター  
地域密着型 NPO  
あいネット

笑みリハビリ  
デイサービス

### ▶避難場所

- みよし市が指定している広域避難場所は黒笹小学校だが、周囲の道路状況が厳しく（坂がきつい）足・腰に不安のある高齢者や車椅子使用者には、行けるか不安もあり、対応も具体的になっていない。
- 黒笹公民館も避難所になっていて、備蓄もあるので区民の人には利用しやすいと思われる。
- ふれあいセンターは発生時に逃げこむにはいいが、避難所としてみよし市に指定されていないので、トイレや食品は特に考えられていない。

2年目は黒笹いきいきクラブの皆さんに参加いただき、災害時の避難の備えとして「車椅子の体験会」を行いました。



会場のふれあいセンターの目の前に「笑みリハビリデイサービス」の建物があり、「こんなに近くにあったんだ」等、名前を聞いていても場所や何をしているかはあまり知られていないこともわかり、場所や機能、どういう人がやっているかを知る良い機会になりました。

「一度行ってみたい」「体験や食事をしてみたい」の声に「笑み」さんから「どうぞ…」という対応があり、直接顔を合わせたからこそやりとりができました。こういった直接会って話をする機会はお互いを知る関係づくりには不可欠だと感じました。車椅子についても歩きづらくなってから使うだけでなく、歩き続けるための補助に使えることに気づく機会になり、体験の良さを実感しました。

せっかくの出会いをこれからのお付き合いにしたいと実施後の「笑み」とあいネットの話し合いの中で確認しました。

## 災害時の命を守るご近所の助け合い

熊本地震では、慣れない避難生活を避け、車中泊や自宅で過ごした結果、震災関連死は直接死に比べ 4.4 倍になりました。特に、男性の一人暮らしと高齢者は、発災から死亡まで約 1 週間以内に自宅で亡くなりました。災害時の命を守るためには一刻も早く在宅を回り、そして避難先でのトイレはどうか、薬や水、食べ物が口に合うのか、寒さ暑さ、感染症の防止等の確認が必要になります。

身の回りのことは、ご近所同士の助け合いがあつてこそ。それは、デイサービスに通う高齢者の命を守らなければならない福祉事業所も同じです。

そこで2年目を迎えた『災害時のいろは隊』では、笑みリハビリデイサービスとの車いす体験会を企画、黒笹いきいきクラブの皆さんとの交流が生まれました。これを機に、ともに有事を乗り越え助け合う関係性へ発展することができればと願っています。 NPO 法人地域福祉サポートちた代表理事・事業アドバイザー 市野 恵

地域の中で手をつなごう

笑みリハビリデイサービス 〈みよし市黒笹 1 丁目 13 番地 1〉  
黒笹行政区 〈みよし市黒笹 1 丁目 8 番地 8〉  
NPO 法人 あいち NPO 市民ネットワークセンター